

2015 年ミャンマー大洪水

第一次緊急支援の御礼及び状況報告

被害背景と堤防に囲まれた海拔ゼロメートル地帯
ヒンタダ郡の被災状況を中心に



2015 年 8 月 17 日
SEEDS Asia ミャンマー事務所

1. はじめに

2015 年 7 月末、ミャンマーの西側に位置するバングラデシュにサイクロン・コメンが上陸し、ミャンマーの北西部で記録的な大雨が発生。ラカイン州の他、国内 4 大河川の一つチンドウィン河流域にあるチン州、ザガイン地域、マグウェー地域で大洪水が発生した。数日後には、河口に向かって水が南下し、バゴー地域、エヤワディ地域などにも拡大。ミャンマーのほぼ全域合計 14 州/地域の内、13 州/地域に被害が及ぶ大規模災害となった。被災者は全国で 1,368,867 万人を超え、299,480 世帯が避難、損壊家屋は 15,197 家屋、死亡・行方不明者は 105 名に及んでいる(8 月 13 日時点:社会福祉救済復興省データ)。

2013 年に制定されたミャンマー国家防災法に基づき、2015 年 7 月 31 日、大統領による「緊急事態宣言」が発表され、緊急対策本部(Emergency Operation Centre: (EOC))が首都ネピドーに設置された¹。

SEEDS Asiaはこの事態を受け、緊急支援を決定。物資配布の準備、緊急ニーズアセスメント(RNA: Rapid Needs Assessment)の準備をしつつ、メールや電話を通じて関係者から情報収集を継続した。ミャンマー工学会の若手エンジニアグループ(Young engineering group of Myanmar Engineering Society)と、チンドウィン大学(Chindwin college)の学生ボランティアらと連携することとなり、SEEDS Asiaは、緊急時に於ける人道支援の国際基準の共有やボランティアスタッフの安全確保の徹底、物資リストの作成、地方区役所や社会福祉救済復興省・復興救済局(RRD)の各地方事務所との調整役を担った。緊急支援の対象地は、今般の洪水によって水没し、脆弱な堤

防に被災者 274 世帯が避難しているにも関わらず、支援物資が届いていなかったエヤワディ地域ヒンタダ郡ヒンタダ区エイッピャ村を対象とすることに決定した。

8 月 7 日、国内外から集まった支援物資を MES とチンドウィン大学の学生ボランティアとの連携の下、避難キャンプに第一弾として届けることができたことに対し、まずは、この場を借りて深くお礼を申し上げたい。本レポートでは、SEEDS Asia がミャンマー工学会及びチンドウィン大学のボランティアと共に実施した緊急支援の対象となったエヤワディ地域の北部に位置するヒンタダ郡に焦点をあて、被害状況と支援の状況について記録と共有を目的として記載しておくこととしたい(8 月 14 日時点で入手可能なデータを基とする)。



図 1 ミャンマー洪水被災地 地図
(出所 National Disaster Management Committee, Myanmar Situation Report No.1 から抜粋)

¹ EOC の指揮を執っているのは社会福祉救済復興省及びサポート役として U.S. Forest Service International Programs/USAID が国際/国内援助機関(AHA Centre, Myanmar Red Cross, UN OCHA, World food programme, Myanmar Information Management Unit)を纏めている。



写真 1 緊急支援の対象村（エイピャ村）の方々と、緊急支援共同チーム
（チンドウィン大学、ミャンマー工学会若手エンジニアグループ、SEEDS Asia）

2. 洪水の要因・背景について

1) 季節外れのサイクロンとドライゾーンへの豪雨

従来、ミャンマーは 6 月頃から 8 月までは本格的な雨期（モンスーン期）にあり雨量が多い。雨期における全国の月平均の降雨量は 3 か月に亘って約 400mm に及ぶ（東京の 6 月平均は 150mm 程度）。さらに 10 月頃までモンスーンの影響を受け、雨が継続して降ることから、小規模の洪水は毎年、随所で発生している。雨期の前後である 4 月の水祭り明けから 5 月末頃までを「プレ・モンスーン期」、また、10 月-11 月頃までを「ポスト・モンスーン期」と呼び、例年のミャンマーではこのモンスーン期を挟んだ前後にベンガル湾で発生するサイクロンの影響を受けることが多い²。よって、今回、7-8 月という、雨期の真只中にあるミャンマーにおいて、サイクロンの影響を受けるのは珍しいことであり、雨期にさらなるサイクロンの影響を受け、豪雨に豪雨が重なった。

下記の雨量を示す図のとおり、ミャンマー国内において、降雨量が多いのはエヤワディ地域で、雨期には月平均で 500mm-600mm に及ぶ。同地域は低平地のデルタ地帯にあることから、住民は豊富な水を活かした稲作と漁業を営み、高床式の住居で暮らしながら、雨期

² 2008 年のナルギスは 5 月初旬、2010 年のサイクロン・ギリは 10 月下旬に襲来した。

には移動手段として小舟を活用する等、ある程度の水位上昇には対応できる生活様式を持っている。そのため、家屋床下の浸水程度であれば「水害」として捉えることはなく、上流からの栄養分が水と共に大地に流れ込む時期として捉えており、稲作や漁業には欠かせないものとなっている。

一方、今回の豪雨が集中したデルタではない北西部の地域では、例年は雨期でも普段200-300mm 程度の降雨量に過ぎず、ドライゾーン³として認識されている地域であり、今般の、たった一日で50mm-150mm に及ぶ豪雨が続くという事態は未曾有の出来事であった。

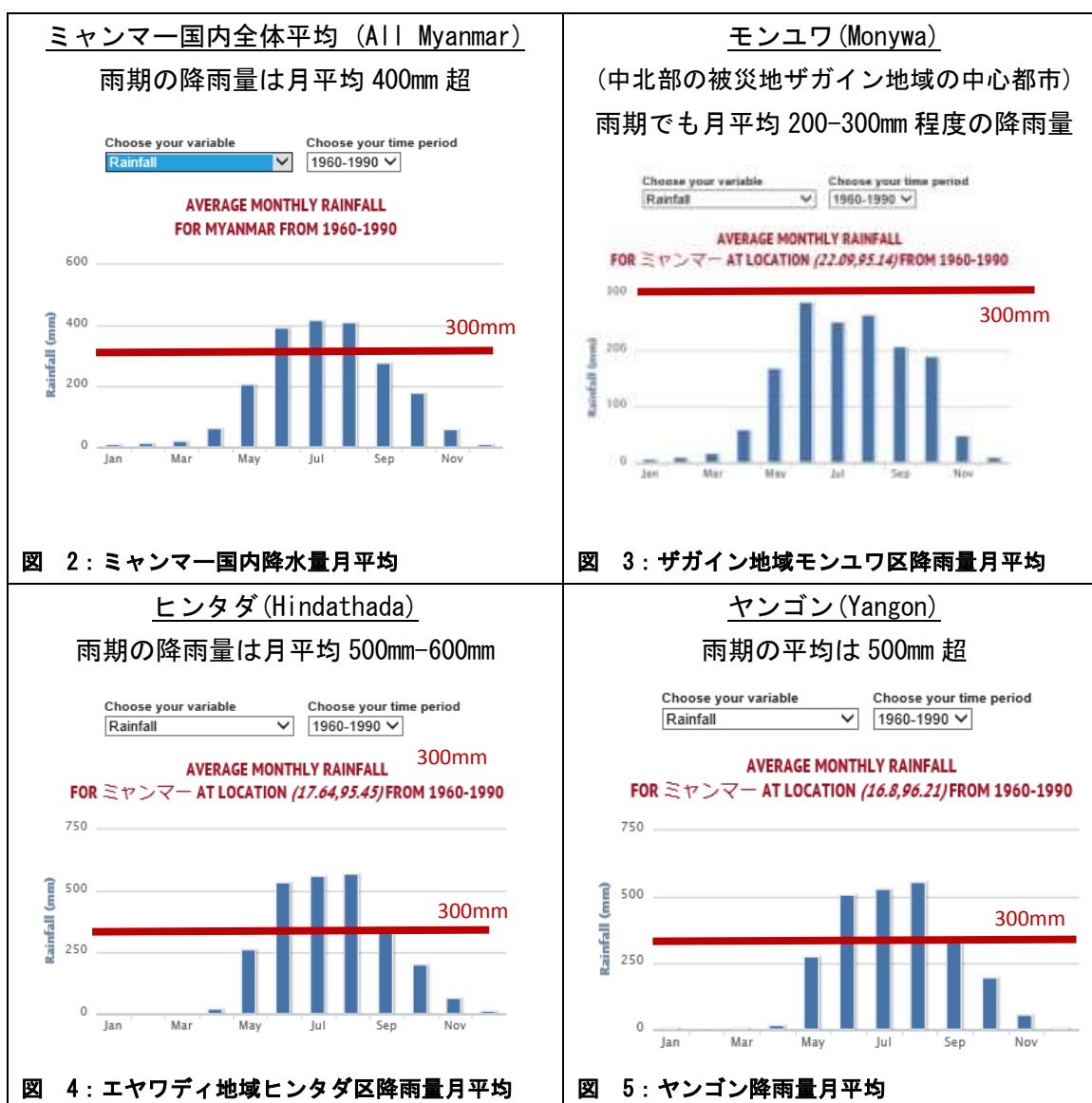


図 2-図 5 データ及びグラフ出所: The world bank group Climate Change Knowledge Portal

但し、300mm の赤線は SEEDS 記入

http://sdwebx.worldbank.org/climateportal/index.cfm?page=country_historical_climate&ThisRegion=Asia&ThisCCCode=MMR

³ Hazard Profile of Myanmar (p. 17) によると、ミャンマーの年間降雨量平均は 2,253mm に対し、ドライゾーンは 750 mm 程度と認識されている。

2) 増加する洪水リスク

普段は降雨量の少ないドライゾーンに於ける洪水リスクについては、ざっくりとしたものであるがリスク・ゾーンマップが政府発行の Hazard Profile of Myanmar (2009) で公開されている (図 6)⁴。同書には、過去の同地域における洪水の記録リストが記載されており⁵、歴史を遡れば今回の洪水の被災地と重なっている地域も多い。しかし、従来の北西部における洪水は局地的なもので、今回の全国規模に及ぶのは、ミャンマーの記録史上において初めてのことであった。この直接的な原因は、上記の通り、ドライゾーンでの未曾有の豪雨にある⁶が、この豪雨や被害の背景には気候変動や環境の影響があることは否めない。今後、専門家らにより詳細で公平な調査が進められることが望まれるが、チンドウィン河流域には銅鉱山やチーク材などの高級木材があり、森林破壊が進んでいるという報告もみられる。こうした状況や影響について調べることは、今後の防災施策の策定にあたり重要であると思われる。

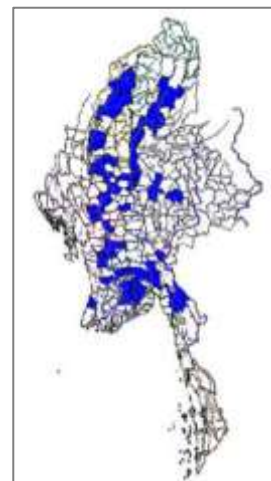


図 6 Hazard Profile of Myanmar (2009) で示された国内洪水リスクマップ

世界の森林データを Web で状況共有をしている Global Forest Watch⁷では、ミャンマー各州・地域別に 2001 年から 2013 年間で森林破壊域及び植林等で復元した地域を衛星データから算出し公開している。下記の表から見ても分かる通り、森林伐採や山林開拓で失われた森林の殆どは 1-2 割弱の復元率のままの状態です。ミャンマーの森林が失われていっていることが分かる。破壊域の最大地域はザガイン地域、続いてカチン州で、20 万 ha を越えており、いずれもエヤワディ河の源流、ザガイン地域はチンドウィン河の源流がある地域となっている。

こうした事態について、国内大手ジャーナル誌 News Eleven では今般の洪水被害と森林破壊の関係性について言及しており、中国にミャンマーのチーク材他、多くの木材が伐採され密輸されていることを非難している⁸。土砂災害を一例として、環境の悪化が災害リスクを高めることはよく知られているが、今回のミャンマーにおける大洪水も気候変動の影響や環境の影響を受けていることが十分に予測できる。

⁴ Hazard Profile of Myanmar, Government of Myanmar (2009)

⁵ 過去最も規模が大きかった記録は 1997 年のカレン州における大洪水で、州内の 5 区内、被災者は 109,840 人であった。

⁶ ミャンマー気象水文局では今回の被災地での降雨量は一日で各地 50mm-150mm の降雨が観測されている。<http://www.dmh.gov.mm/rainfall-3172015>

⁷ Global Forest Watch <http://www.globalforestwatch.org/country/MMR>

⁸

<http://news-eleven.com/%E1%80%B1%E1%80%86%E1%80%AC%E1%80%84%E1%80%B9%E1%80%B8%E1%80%95%E1%80%AB%E1%80%B8%E1%80%99%E1%80%BA%E1%80%AC%E1%80%B8/%E1%82%8F%E1%80%AD%E1%80%AF%E1%80%84%E1%80%B9%E1%80%84%E1%80%B6%E1%80%B1%E1%80%90%E1%80%AC%E1%80%B9%E1%82%90%E1%80%AF%E1%80%95%E1%80%B9%E1%80%95%E1%80%B6%E1%80%AF%E1%80%9C%E1%82%8A%E1%80%AC#overlay-context=>

表 1：地域/州別の森林破壊域と復元域比較

被災 州/地域	森林破壊域 2001—2013 年	植林などによる復元域 2001–2012 年
ラカイン州	87, 993ha	11, 445 ha
ザガイン州	209, 676 ha	35, 090 ha
チン州	91, 735 ha	31, 202 ha
マグウェー地域	32, 857 ha	2, 936 ha
モン州	46, 480 ha	2, 842 ha
カレン州	130, 356 ha	21, 960 ha
カチン州	215, 251 ha	45, 149 ha
バゴー地域	55, 096 ha	5, 380 ha
エヤワディ地域	14, 568 ha	1, 239 ha

出所：Global Forest Watch データを基に作成

3) ドライゾーンにおける災害対応能力の不足

SEEDS Asia も例外ではないが、ミャンマーにおいて防災事業を実施する多くの団体は、サイクロン・ナルギスを契機として事業を実施してきているケースが多い。そのため、被災地であったエヤワディ地域の被害と災害リスクの高さからエヤワディ地域を優先して事業が実施されてきた。近年になってようやくバゴー地域、ラカイン州やカレン州などに広がりを見せ始めたところであるが、今回の災害被災地において防災事業を実施していた団体はラカイン州を除き多くはない。そのため、洪水のリスクマップなど、防災に関わる様々な情報の共有や対処能力に関わる能力向上プログラムは殆ど実施されておらず、防災知識や意識が地方政府役人や住民に浸透していたとは言い難い。ただし、マグウェー地域においては、2010 年の 10 月に鉄砲水による洪水被害を受けており、洪水に対する意識が多少高かったことは被災人口に対する避難率が比較的多かった背景の一つと思われる。

一方、図 7-8 が示すように、被災地の中でも、ラカイン州、ザガイン州などでは避難者は比較的少なく、死亡者が多いという事態が発生している（図 8 参照）。鉄砲水などで避難の時間がなかったことが予測されるが、既に 6 月の時点でも被害が出始めている記録もあり何らかの兆候があったのではないかとと思われる。よほど住民の防災意識が非常に高く自主避難を開始することが無い限り、あるいはコミュニティの水防団が存在していない限り、通常は、小規模洪水の発生時の避難指示は地方政府役人の判断能力に依存しており、当政府担当者の判断力が人的被害の結果に直結することになる。各地域の特性に基づく明文化された避難指示発令マニュアルや指標が存在していないために、図 7 のように地域毎の担当官個人の資質による判断で、人的損失の数に大きく差が出たと考えられる。とりわけ、ラカイン州の北部やドライゾーンを例として未経験の豪雨や川の氾濫に直面した被災経験値の低い地域で顕著にその傾向が表れたと推測される。今後、同地域に於いて、刻一刻と変化していく状況の中でいつどのような指示や情報が共有されていたのかを時系列に把握

することが、今後、人的被害の削減に向けた防災への取り組みに向けた教訓として欠かせない。今後、SEEDS Asia としても状況と避難指示のタイミングや住民の行動について今後も情報収集に努めていくこととし、地域防災の教訓として役立てていくこととしたい。

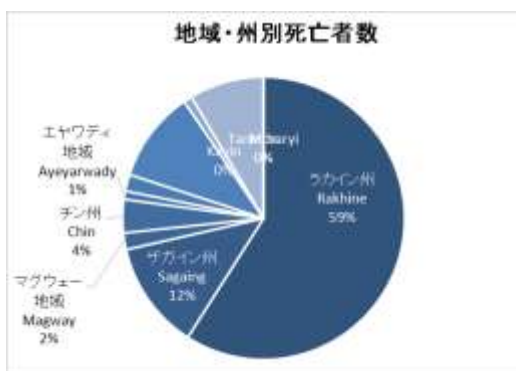


図 8 州/地域別死亡者数
基データ：社会福祉救済復興省発行 (2015 年 8 月 13 日付) を基に SEEDS 作成

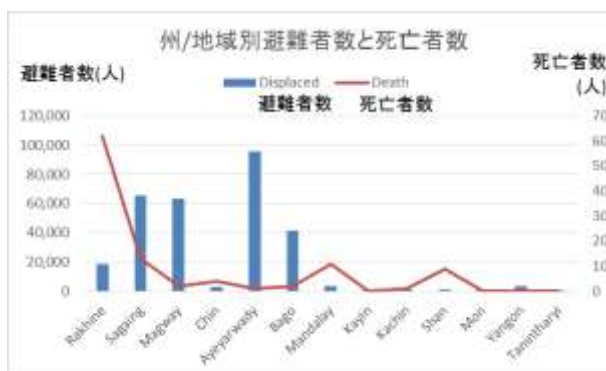


図 7 州/地域別避難者数と死亡者数
基データ：社会福祉救済復興省発行 (2015 年 8 月 13 日付) を基に SEEDS 作成

2) 河口へと拡大した被災地

図 10-14 を見ても明らかなように、今般の洪水がミャンマーの北西・中部における豪雨によるものであったが、北から南、西から東にもと拡大し、エヤワディでは後半に拡大していることが分かる。チンドウィン河が合流する⁹国内最大河川エヤワディ河を下ってエヤワディ地域のデルタに被害が及び始めたのは、7 月 30 日のことであり、最初に被害を受けたのは同地域の北部で海拔ゼロメートル以下の地域に位置しているヒンダタ郡であった。

同郡内は 6 区で構成され、土盛りの堤防で河を堰き止める低地で生活している。すなわち、堤防の決壊、あるいは水位の上昇で一瞬にして浸水地帯となる地域である。同郡に限らず、またデルタ地域は平らな堆積地であるため、北部のような傾斜地が殆ど無く、水が停滞してしまう。こうしたことから危険で脆弱な避難場所での長い避難生活をデルタの住民は強いられることとなり、エヤワディ地域は被災者数も最大となっている (図 9-14)。



図 9 州/地域別被災者人口と割合
(8 月 13 日付社会福祉救済復興省・復興救済局データを基に SEEDS 作成)

⁹ 21° 30' N 95° 15' E. ザガイン地域・ヤセージョー区にて合流

8 月 3 日時点



図 10 UN-OCHA
(国際人道問題調整事務所) 8 月 3 日発行

8 月 6 日時点



図 11 UN-OCHA 8 月 6 日発行

8 月 10 日時点

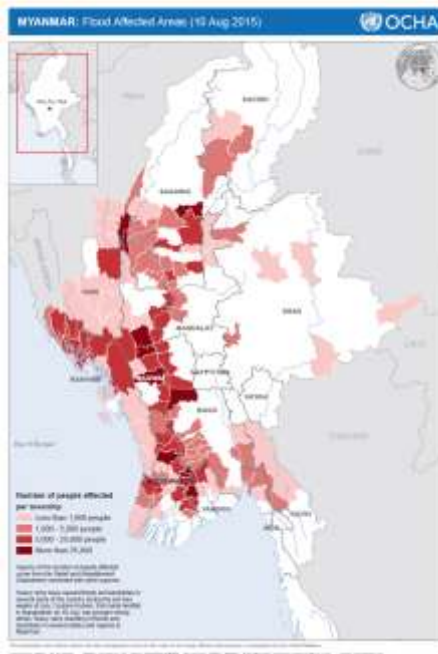


図 12
UN-OCHA 8 月 10 日発行

8 月 13 日時点

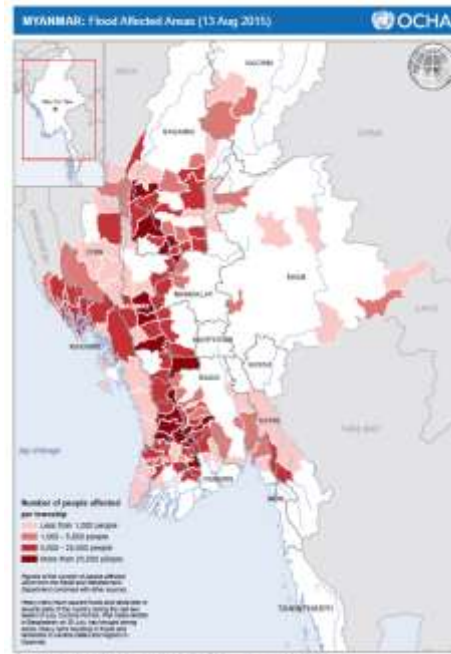


図 13
UN-OCHA 8 月 13 日発行

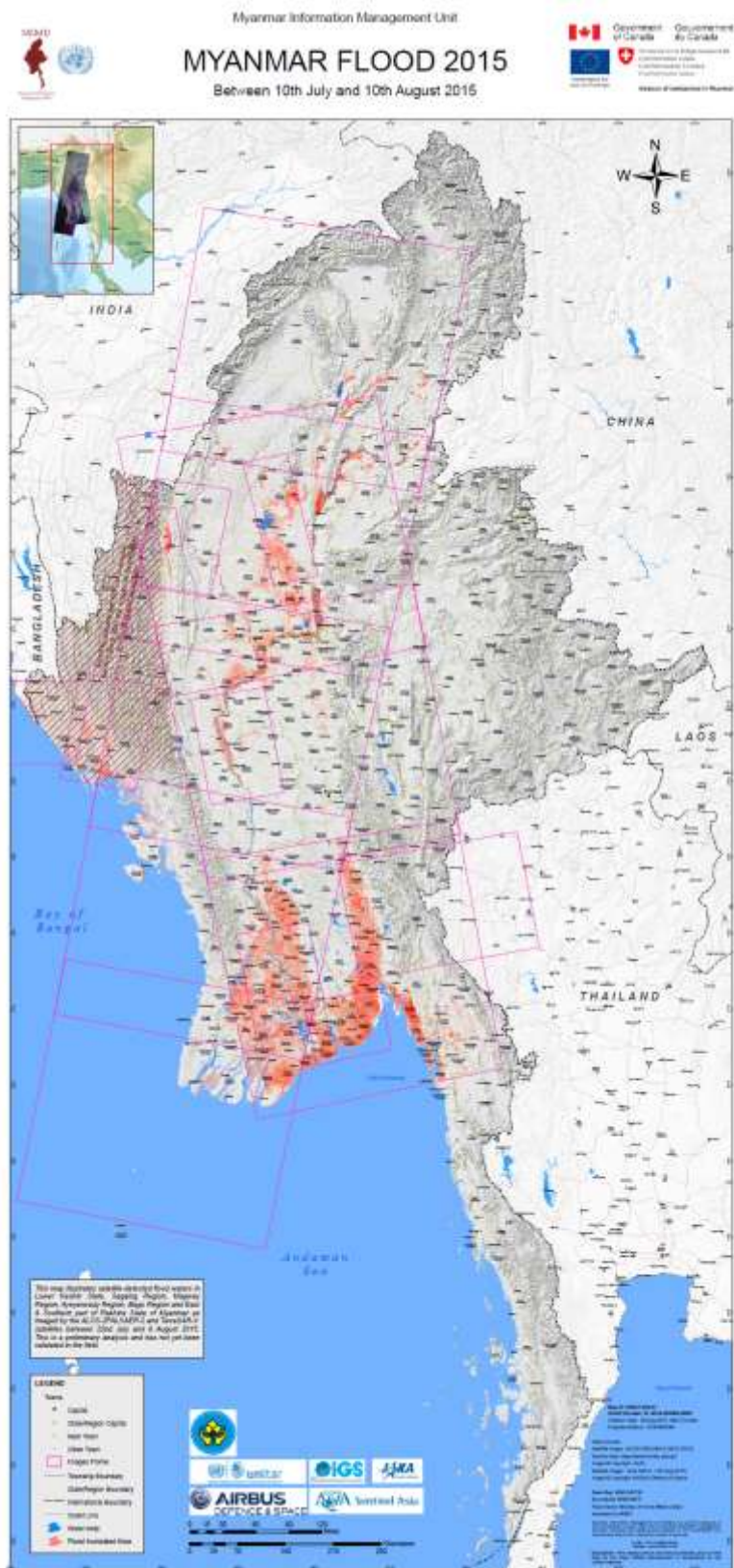


図 14 ミャンマーの洪水被害マップ 出所：MIMU

3. 人道支援の状況と問題

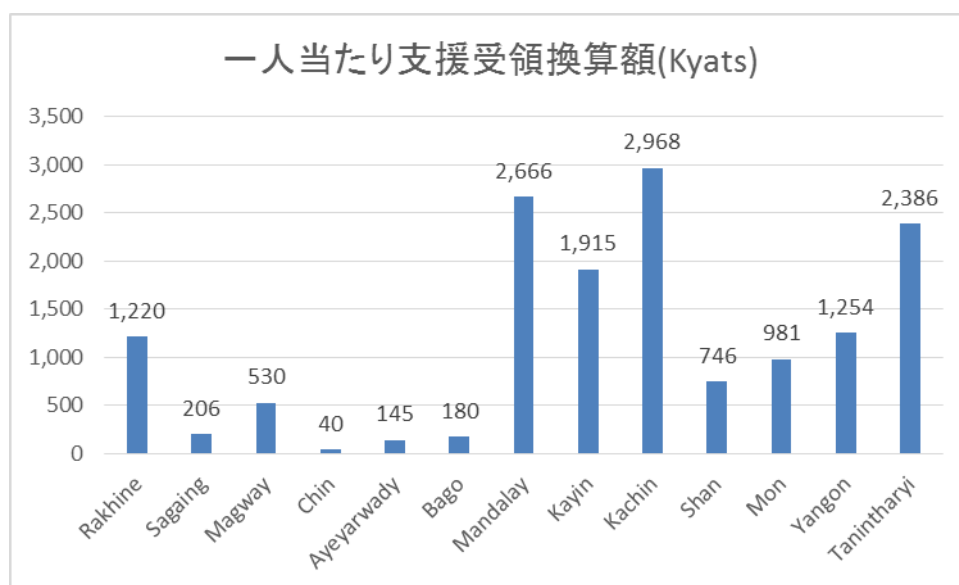
上記に記載した通り、今般の洪水は、ミャンマーにとって史上初の広範囲に及ぶ地域と被害者が発生した未曾有の洪水であった。国家防災法(2013 年)の施行に基づく国家防災対策委員会の動きや、国際支援の受け入れ体制においても 2008 年サイクロン・ナルギスと比較すると雲泥の差で改善が見られた。しかし、迅速でスムーズ、被害状況やニーズに応じた支援が行われたとは言い難い。

また、洪水被害が北部で発生し始めていたのは 6 月のことであった。しかし、当初は、上記のとおり、洪水は全国で随所に見られるものであるため、メディアもそれほど注目することはなかった。しかし、実際のところは 6 月 24 日から同月末日時点で既に 14,911 人が被災し 7 名が死亡している(ラカイン州 6 名、エヤワディ地域 1 名)。サイクロン・コメンの襲来で豪雨が一層激しく降り出した頃ようやくメディアで取り上げられるようになったが、既に対応できない数の人々が避難生活を送っていた。その後、国内ではミャンマーの法人・個人の有志による募金や物資の配布が例をみないほど盛んに行われ、被災地域に届けられたことは特筆に値する。一方、こうした一連の寄付を調整、記録する中間組織が各地に存在しておらず、支援地域や支援物資や内容の重複、場所によっては支援物資の倉庫が溢れ、物資を遠方まで移動しなければならないケース、或は無駄になってしまうケースがあった。また、支援物資の内容が偏り重複する一方、物資が届かない村などがあった。本来、社会福祉救済復興省・復興救済局は郡レベルでの調整機能を持つ事務所や倉庫を持っているものの、区レベルには事務所を持っておらず、大規模災害時に村レベルまで把握・到達するのは困難である。そのため、区役所が区防災委員会として情報を収集し支援物資の調整を担当しているが、国内の有志ボランティアらは政府に頼らない個人的な人脈を活用した支援を行っており、調整機能や記録について義務化されていない。こうした状況から、人道支援の基本であり基準であるニーズに基づいて支援の内容や時期を決めるというプロセスや基準¹⁰が共有されないままに支援が進んでおり、「あげたいものを、あげたいところへ届ける」というスタンスになっている場合が多い。重複や偏りを防ぐためにはまず調整が必要で、区役所(Township General Administrative Department)への届け出を必須とすべきであり、物資リストのフォーマットなどを準備しておく必要がある。また、災害時の危機的状況の中、普段のモラルや関係性が災害によって失われるケースは世界共通で、ミャンマーも決して例外ではない。緊急支援に伴う犯罪や混乱による負傷や、復興を妨げるような問題の発展を避けるためには、調整や基準プロセスを踏まえることによって、一層効果的な支援を図ることを支援団体として配慮すべきと思われる。

次に国際支援のスキームについても、被災がほぼ全国に拡大していることが明らかでありながら、支援対象地域が未だに当初の被災地域(ラカイン州、チン州、マグウェー地域、ザガイン地域のみ)に偏っていることは多くの上記地域以外者の被災者が取り残されている現状を見ると非常に残念である。これは、8 月 13 日付のデータに基づく被災地への支援額を各地域/州被災者一人あたりに換算して計算してみると、差の大きさがより明らかにな

¹⁰ Sphere や Core Humanitarian Standard 等

る。エヤワディ地域などは今後も被害が続くことや、水がすぐに引く土地ではないために、避難生活も長くなることが予測されるものの、一人当たりの受領換算額は 145 チャットに過ぎず、マンダレー地域、カレン州、カチン州、そして被害がそれほど甚大ではなかったタニンターリ州、マンダレー地域で一人当たり換算額は 2,000 チャットを超えている。同じ被災地でありながら、20 倍近くの差があることや、またザガイン、マグウェー地域、チン州にもあまり今のところ被災者一人当たりに行き届いていないことが分かる。今後、被災地の状況に応じた、支援の支援と調整が行われることを期待し、SEEDS Asia としても配慮することとしたい。



社会福祉救済復興省 (MoSWRR) データ (8 月 13 日付) を基に SEEDS 作成

4. ヒンダタ郡について

地形的な背景から、エヤワディ地域の被災者の内、62.6% がヒンダタ郡の住民である。ヒンダタ区は英国植民地時代、穀物の生産・集積地として低地に堤防が建設され経済が発展し人口が増加した。海拔ゼロメートル以下の土地で人々が暮らしており、水害から守るための堤防が決壊すれば一気に浸水してしまう地域という状況において、日本の「輪中」¹¹と構造が似ており、コミュニティには水防組織が存在している。被災住民へのランダムサンプリングによるインタビューによると、近年、堤防補修の機械化が進められるまでコミュニティ全体で堤防の修復を行ってきた。また、高リスクの村では家屋床が二重構造になっているなど、水



図 15 ヒンダタ郡・ヒンダタ区の浸水マップ(平面)
出所: MIMU

¹¹日本の「輪中地域」と呼ばれる三重・岐阜・愛知に亘って広がる揖斐川・木曽川・長良川海拔ゼロメートル以下の堤防に囲まれた低地のことで、水防組織が存在している。

と暮らす低地の人々の工夫や努力が重ねられている。今回の洪水については、1936年と1994年に堤防が決壊、或いは堤防を越える数メートルレベルに達する大洪水の発生に関する情報が世代を越えて伝承されており、「お爺さんから聞いていたので、村は水没したがその前に避難をすることができた」という証言も見られた。図15、16の地図にも示されているとおり、同郡内のエヤワディ河流域の広い範囲で浸水し、同郡では多くの家屋が浸水し237,823人が被災(8



写真2 緊急支援対象地の水没したエイッピャ村(右)と堤防

月13日付)、家屋、学校、僧院などが浸水している。特に冒頭に記載したように SEEDS Asia が MES やチンドウィン大学の学生ボランティアと緊急支援として物資を提供したエイッピャ村は全てが水没しており、以前は河だったのではないかと疑うほど屋根も殆ど見えない状況になっていた。

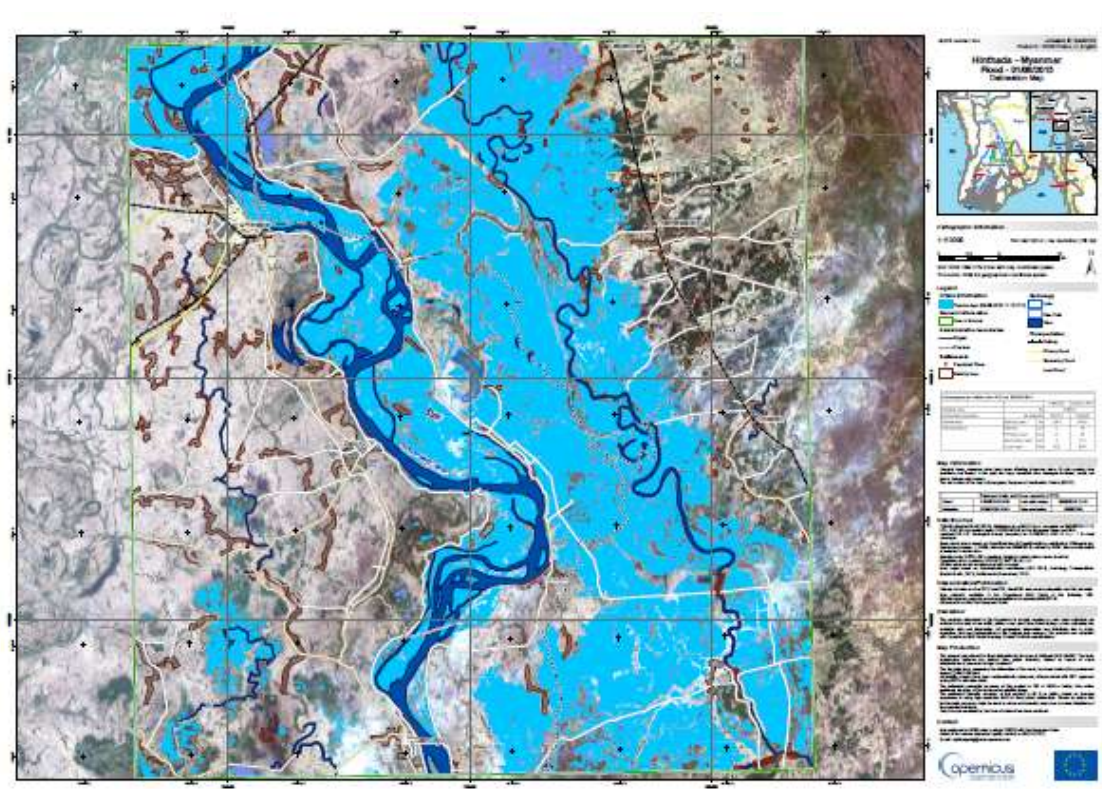


図16 ヒンタダ郡・ヒンタダ区の標高浸水マップ(出所:MIMU)

エヤワディ地域の被災人口は 380,201 人であり、ヒンタダ郡（6 区）で 237,823 人、62.6% を占める（8 月 13 日時点、表 2、表 3 参照）。

表 2 エヤワディ地域内の被災区リスト（水色箇所は全てヒンタダ区）

Region 地域	Township 区	Tsp_Pcode 区コード	Date of Flood Started	Total No. of Population (Census 2014)	Affected Population		Affected Household	
					No. 人	% of Total	Collapsed/ Destroyed	Displace d
Ayeyarwady	Hinthada	MMR017008	30-Jul-15	337,880	44,365	13.13		11,266
Ayeyarwady	Zalun	MMR017009	2-Aug-15	167,990	34,896	20.77	21	8,816
Ayeyarwady	Lemyethna (Lay Myat Hnar と同じ)	MMR017010		102,716	26,335	25.64	10	6,175
Ayeyarwady	Myanaung	MMR017011	30-Jul-15	218,338	56,696	25.97	86	14,024
Ayeyarwady	Kyangin (=KyanKhin)	MMR017012	1-Aug-15	96,090	7,211	7.50	35	2,576
Ayeyarwady	Ingapu	MMR017013	30-Jul-15	213,639	68,320	31.98	28	17,472
Ayeyarwady	Maubin	MMR017019	4-Aug-15	313,742	9,402	3.00	6	2,290
Ayeyarwady	Pantanaw	MMR017020	2-Aug-15	264,212	20,384	7.72		4,689
Ayeyarwady	Nyaungdon	MMR017021	2-Aug-15	215,953	46,703	21.63	6	10,674
Ayeyarwady	Danubyu	MMR017022	2-Aug-15	179,191	9,008	5.03	14	2,278
Ayeyarwady	Pathein	MMR017001		378,774	721	0.19		176
Ayeyarwady	Kangyidaunt	MMR017002		177,745	11,729	6.60		2,873
Ayeyarwady	Thabaung	MMR017003	2-Aug-15	154,355	6,512	4.22	5	1,851
Ayeyarwady	Ngapudaw	MMR017004	28-Jun-15	323,806	1,453	0.45	13	311
Ayeyarwady	Kyonpyaw	MMR017005		235,358	331	0.14		102
Ayeyarwady	Yegyi	MMR017006	2-Aug-15	193,775	16,756	8.65	14	4,869
Ayeyarwady	Kyaunggon	MMR017007		163,773	18,479	11.28	7	4,712

表 3 ヒンタダ郡の 6 区被害状況詳細（8 月 13 日時点）

Sr.	郡 District/ 区 Township	死亡 Death		行方不明 Lost		No. of flood affected Household 被災世帯	Flooded 浸水					
		Hum an	Cat tle	Hu ma n	Cattl e		Populati on Affected	House	School	Monastery	Othe rs	Paddy Field (acre)
1	Hintada	-	3	-	-	11,266	44,365	11,057	61	40	3	8,196
2	Zalun	-	-	-	-	8,816	34,896	8,816	41	24		14,032
3	Lay Myat Hnar	-	-	-	-	6,175	26,335	6,151	49	74	2	11,280
4	Myan Aung	-	1	-	-	14,024	56,696	1,976	60	40		54,254
5	Kyan Khin	-		-	-	2,576	7,211	2,576	11	6		5,285
6	Ingapu	-	3	-	-	17,472	68,320	17,472	95	30		53,608
	District Total	-	7	-	-	60,329	237,823	48,048	317	214	5	146,655

出典：JICA ミャンマー事務所提供（8 月 12 日時点）から一部抜粋

また、下記写真は緊急支援の際に撮影したものであり、ヒンタダ区の人々が脆弱な場所で避難をしつつ、住民らによる被害リスク削減に向けた取り組みもみられた。



ヒンタダ区エイッピャ村の土盛りの堤防は既に長い雨期で泥になっている場所が多い。



堤防沿いに竹製の簡易家屋（畳1畳—2畳分の大きさ）を自ら立てて堤防に避難している住民



右側には本来は低地にエイッピャ村が存在していたが、河のようになっていた。



水没した村の上を船で移動する避難者ら



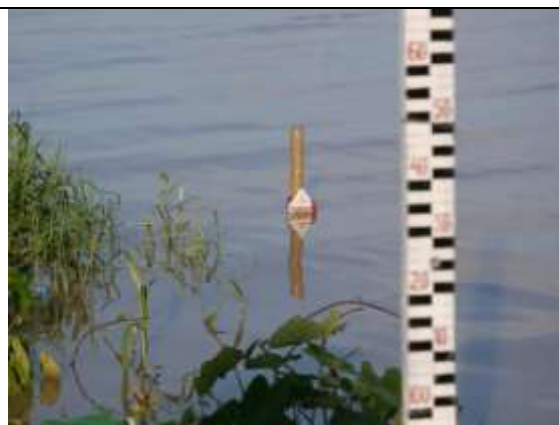
堤防の反対側にも既に水が水位を越えている。



堤防に避難し、竹の簡易家屋を建設する女性



ヒンダタ区の中心部の河も危険レベルに達している。



区の中心部ではまだ洪水にはなっていなかったが住民らで水位レベルや早期警報を伝える取り組みも見られた。



公正な物資の提供のため、避難者が見守る中、物資の移動や提供が行われた。

以上が報告であるが、最後に改めて、上記の支援の実施に際し、ご支援いただいた皆様に改めて感謝申し上げますと共に、今後も情報収集と復興に向けた支援を継続していく所存である旨、記載申し上げたい。

また、今後の展望としては、地域や学校の復旧・復興を進めると同時に、“Build back better（よりよい復興）”のコンセプトの下、ヒンタダ区の堤防補修を他機関と協力しながら行うと共に、こうした輪中とその災害の歴史や災害リスクに関する情報共有の拠点や堤防補修や早期警報のための水防団の能力向上が必要であると思われる。特に、ヒンタダ区には今後国家防災マネジメントトレーニングセンターが2015年9月に開設され、今後も多くの情報や経験の共有機会があることから、ヒンタダ区を国家の防災モデル地区としてまずは特化していくことが全国的な防災対応能力の向上に効果的であると思われる。

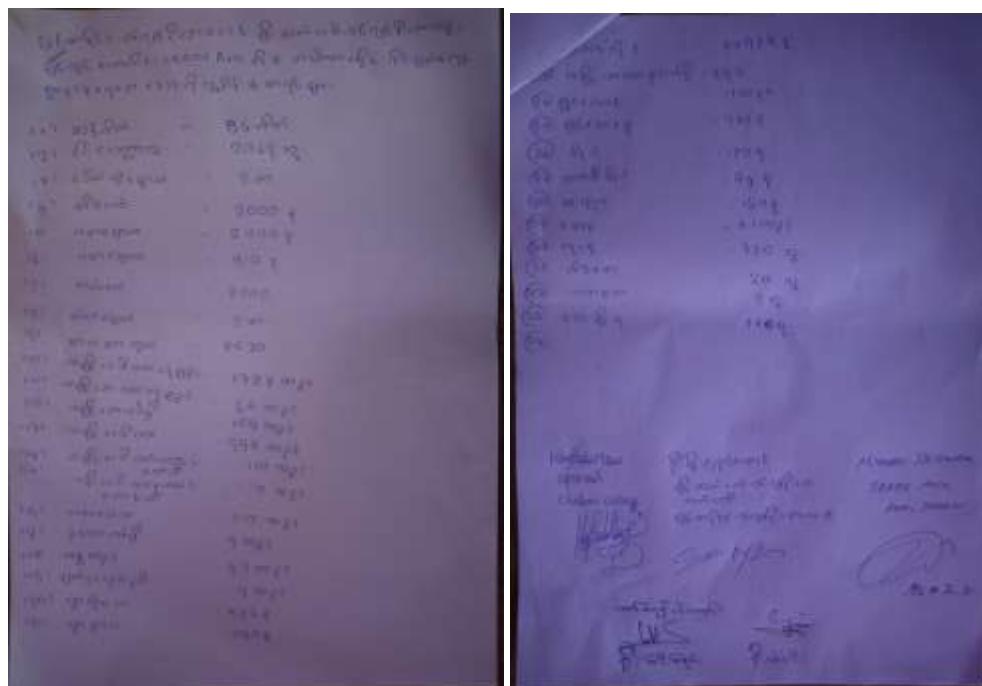
以上

参考・出所データ：

1. 社会福祉救済復興省:Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement
http://themimu.info/sites/themimu.info/files/documents/MoSWRR_Response_on_Flood_with_Census_Population_14Aug2015.xlsx
2. ミャンマー情報管理ユニット Myanmar Information Management Unit(MIMU)
<http://themimu.info/emergencies/floods-2015>
3. Hazard Profile of Myanmar, Government of Myanmar (et.al), 2009
4. JICA ミャンマー事務所

添付：緊急支援配布物資リスト

		Total	Unit
Food/Nutrition	Rice	6,192	kg
	Fish cans	2069	cans
	Dry noodles	2	Box
	Biscuits	2000	
	Dry food	2000	
	Cereal	810	
	Lapetto sets(Myanmar Traditional snacks)	2000	
	Small cakes	2	Box
	Salt	2530	pcs
NFI	Longyi(F)	1327	pcs
	Longyi(M)	65	pcs
	Eingyi(M)	158	
	Brouse	998	pcs
	Underwear set	110	pcs
	Children wear	110	pcs
	Night wear (F)	9	pcs
	Coat	43	pcs
	Towel	9	pcs
	Tooth brush	576	pcs
	Tooth paste	280	pcs
	Candle	44928	
	Shirts (M)	392	pcs
	Mosquito net	11	pcs
	Mosquito coil	960	pcs
	Slipper	120	pcs
	Shoes(Size 9"-11")	84	sets
	Soap	160	pcs
	Blanket	51	pcs
WASH	Drinking water	330	little
	Soap	160	
Health	Ointment (sayako)	9	Box
	Ointment (usain)	5	Box
	Ointment (Thalin)	4	Box
	Ointment (Lenzi)	2	box
	Plaster	2	package
	Eusol (Split)	3	Box
	Golden rabbit	3	Box
	Paracetamol	2040	Box
	Paracetamol(BPI)	3	Box
	Paracap	1	Box
	Certrizine	1	Box
	Tussic	5	sheets
	Mixarip	5	sheets
	Loramide	39	sheets
	Aungdagon (digestive medicine)	2	box



寄付届証人者

- ① ミャンマー工学会若手エンジニア代表 (MES/YE) ソーフィーアウン
- ② チンドウィン大学(Chindwin College) 学生 ナインバラーモー
- ③ SEEDS Asia 鹿田光子

受取人代表 エイッピャ村 村長

- ① エイッピャ村 村長 ウー・ミンチー(U Myint Kyi)
- ② エイッピャ村 村落開発委員会代表 ウー・サンウィン(U San Win)